

専門学校での学びと社会への移行に関するふりかえり調査**学びの充実 専門学校卒業者の8割が実感
「資格取得」以外の幅広い職業教育の効果が明らかに
一方、卒業後の年収に対する満足度は4割にとどまる**

株式会社ベネッセホールディングス(本社:岡山市、以下ベネッセ)の社内シンクタンク「ベネッセ教育総合研究所」では、2016年3月、全国の「専門学校」(専修学校専門課程)を卒業した学歴を持つ20代から40代の社会人3,771名を対象に、専門学校での学びと社会への移行に関するふりかえり調査を実施しました。

近年、高等教育領域では、高大接続改革をはじめ「専門職業大学」(仮称)創設の検討など様々な改革が推し進められています。その一方で、既存の高等教育機関—とりわけ高等学校卒業生(過年度卒含む)の約2割の進学先として存在し続けてきた専門学校が、職業教育を通じてどのような学びの機会を提供し、学生の卒業後の人生や職業生活に影響を与えているのか、教育成果やその後の実態は十分に明らかにされてはいません。

そこで今回、卒業生の視点から、専門学校における職業教育の実態およびその成果と課題を明らかにし、その結果を広く世に発信していくことを目的に調査を実施しました。主な調査結果は、以下の通りです。

1) 専門学校卒業者の約8割が学びが充実していたと回答。学びの充実度は大卒者と同等。

- ・専門学校時代の学びが「充実していた」(とても+まあ充実していた)と回答した比率は76.2%で、専門学校卒業者の約8割が学びの充実を感じている。
- ・2015年に大学卒業生約2万人を対象に実施した「大学での学びと成長に関するふりかえり調査」の結果と比較すると、大学時代の学びが「充実していた」と回答した比率は76.4%である。専門学校卒業者の学びの充実度は大学卒業者と同等である。

2) 職業教育を通じて協調性や勤勉性など非認知スキルの向上を感じている卒業者は約7割。

専門学校時代を通じて、学生はどのような資質・能力を獲得しているだろうか。学びの成果に関する上位5項目をみたところ、専門学校卒業者の約7割が、「人と協力しながらものごとを進める」(71.3%)、「何事にも粘り強く取り組む姿勢を持つ」(69.5%)、「学び続ける姿勢をもつ」(68.5%)など、自らの人生を切り拓いたり、社会的活躍を収めていく上で重要だとされる非認知スキル(粘り強く学びに向かう力や仲間と協力して取り組む姿勢など)の向上を感じている。

3) 約6割の専門学校卒業者が、専門知識や資格以外に「基本的な学び方」や「社会人としての基礎的な能力」の役立ちを実感。

職業教育を通じて獲得した資質・能力や経験のうち、何が卒業生のその後の職業生活を支えているのか。専門学校時代の教育成果や経験のうち、これまでの職業生活に役立っているものをたずねたところ、「専門的な知識・技能・ノウハウ」(66.2%)に次いで、「基本的な学習習慣や態度、学び方」(62.9%)、「社会人としての基礎的な能力」(61.4%)「学習活動の中で必死に努力した経験」(58.7%)の比率が高い。一般的に専門学校は資格取得や即戦力育成が目的だと思われがちだが、「獲得した資格」(56.9%)と同等かそれ以上に役立ち度を感じている。

4) 専門学校卒業者の約 65%が現在の「働き方」「仕事上の地位」「仕事上の人間関係」に満足も、年収面の満足は 4 割にとどまる。

専門学校生は卒業後、どのような職業生活を過ごしているのか。現在の「働き方」「収入」「仕事上の地位」「仕事上の人間関係」に関する満足度をみたところ、専門学校卒業者の約 65%が「働き方」「仕事上の地位」「仕事上の人間関係」に「満足」(とても+まあ満足)している。ただし年収についての満足は 4 割にとどまる。

5) 専門分野によって卒業後の専門分野の「定着率」や「正規雇用率」、「平均年収」に違い。

大学卒業者(全体)との平均年収の差は約 100 万円。

専門学校卒業者は、現在どのような分野の仕事に、どのような条件で働いているのか。卒業後の社会での働き方について、専門学校在籍時の専門分野と関連する領域の仕事に就いている比率(「定着率」)、「正規雇用率」、「平均年収」の 3 つの観点から、専門分野別にその実態をみたところ、「定着率」は、医療分野(81.5%)や教育・社会福祉分野(69.0%)で高く、商業実務分野(34.2%)や文化・教養分野(21.8%)で低い。資格系と非資格系で明確な差がみられる。一方、「正規雇用率」と「平均年収」は、資格系の中でも衛生分野(41.6%、228 万円)は低い、非資格系の中でも商業実務分野(61.6%、307 万円)は高いなど、専門分野による差が大きい。また「平均年収」について大学卒業者(全体)と比較したところ、約 100 万円の差が確認された。

今回の調査から明らかになったことは次の 3 点です。

「青年期教育」としての職業教育の意義を再評価することが必要。

専門学校生は、専門的な知識・技能や資格取得以外に、職業教育を通じて基本的な学び方や社会人としての基礎的な能力を獲得したり、自己の適性や将来への関心を深めており、卒業後の社会・職業生活を通じてその学びの成果を実感していた。こうした「青年期教育」としての職業教育の意義も再評価した上で、これからの高等教育における職業教育の在り方を検討していくことが求められる。そして実社会と多くの接点をもつ職業教育ならではの学生の社会的・職業的自立の支援のあり方は、近年、主体的な学習者の育成に問題を抱えている大学教育に対しても示唆を与えるものではないか。

卒業後の社会・職業とのつながり方を認識した上で、進路・職業を選択していくことが重要。

今回の調査から、一括りに「専門学校」と言えど、専門分野によって、履修分野と関連する職業への就職・定着率や雇用形態、平均年収に大きな異なりがあることが明らかになった。専門学校への進路を検討している中高生は、専門学校で何が学べ、どのような資格を取得できるかと共に、その先の社会・職業とのつながり方の特徴も踏まえておく必要がある。そしてその上で、どのような専門性を磨き社会に貢献していくのか、進学後も意識して学習し続けていくことが、職業選択の可能性や活躍の場を広げることにつながるのではないか。そのためにも、各専門分野ごとの特徴にあわせた教育成果の質保証が求められる。

非認知スキルなどの学び成果は大学卒業者と遜色ないが、社会に出てからの年収には差がある。

専門学校卒業者と大学卒業者の学びの成果に関する回答を比較したところ、社会的成功や活躍に影響を与えるとされる非認知スキルについて大学卒業者と遜色ない傾向が確認された。実際にどれだけの能力・資質を獲得しているかは、客観的評価を組み合わせながら確認する必要があるが、少なくとも卒業者の実感レベルでは、同等の学びの成果を上げているにもかかわらず、職業人の評価指標の1つである年収面では、大学卒業者と専門学校卒業者の間に約 100 万円の差があることが明らかになった。

職業教育を通じて若者が何を学び、どのような資質能力を高めているかについて、教育機関だけでなく、産学官で連携しながら専門分野別にその評価体系を構築、教育と労働市場の接続の在り方を含めて検討していくことがますます重要になるのではないか。

ベネッセ教育総合研究所では、これからの高等教育における職業教育の在り方について、卒業生がどのように社会へ移行しているか、その実態を踏まえながら引き続き検討していきます。

調査概要

名称	専門学校での学びと社会への移行に関するふりかえり調査
調査テーマ	専門学校での学びと成長に関する意識と、卒業後の社会への移行のあり方の把握
調査方法	インターネット調査
調査時期	2016年3月
調査対象	20～49歳の日本の専門学校（専修学校専門課程）を卒業した者 3,771名（20～29歳 1,237名、30～39歳 1,269名、40～49歳 1,265名）
調査項目	<p><学生時代のふりかえり> 専門領域(8分野)/高校での学習状況/進路選択の際に重視した点(入学理由)/入試方法/志望度/行動主体性/教職員とのつながり/専門学校での学習状況/設備、制度の利用状況/学生生活で力を入れたこと/教育に対する印象/教育の経験頻度/学修成果/学びの充実度/成長実感 など</p> <p><現在の仕事の状況や考え> 現在の職業/雇用状況/キャリア観/専門学校教育の役立ち度/卒業校への思い/現在の自信/満足度 など</p>
調査企画・分析メンバー	小泉和義(ベネッセ教育総合研究所 副所長) 佐藤昭宏(ベネッセ教育総合研究所 高等教育研究室 室長) 松本留奈(ベネッセ教育総合研究所 高等教育研究室 研究員)

ベネッセ教育総合研究所のホームページからも、本リリース資料をダウンロードできます。
また、今後さらに分析を進め、2016年10月ごろに調査結果をまとめたレポートを掲載する予定です。
<http://berd.benesse.jp/>

●主な調査結果

専門学校時代の学びに対する卒業生の評価

1) 専門学校卒業者の約 8 割が学びが充実していたと回答。学びの充実度は大卒者と同等。

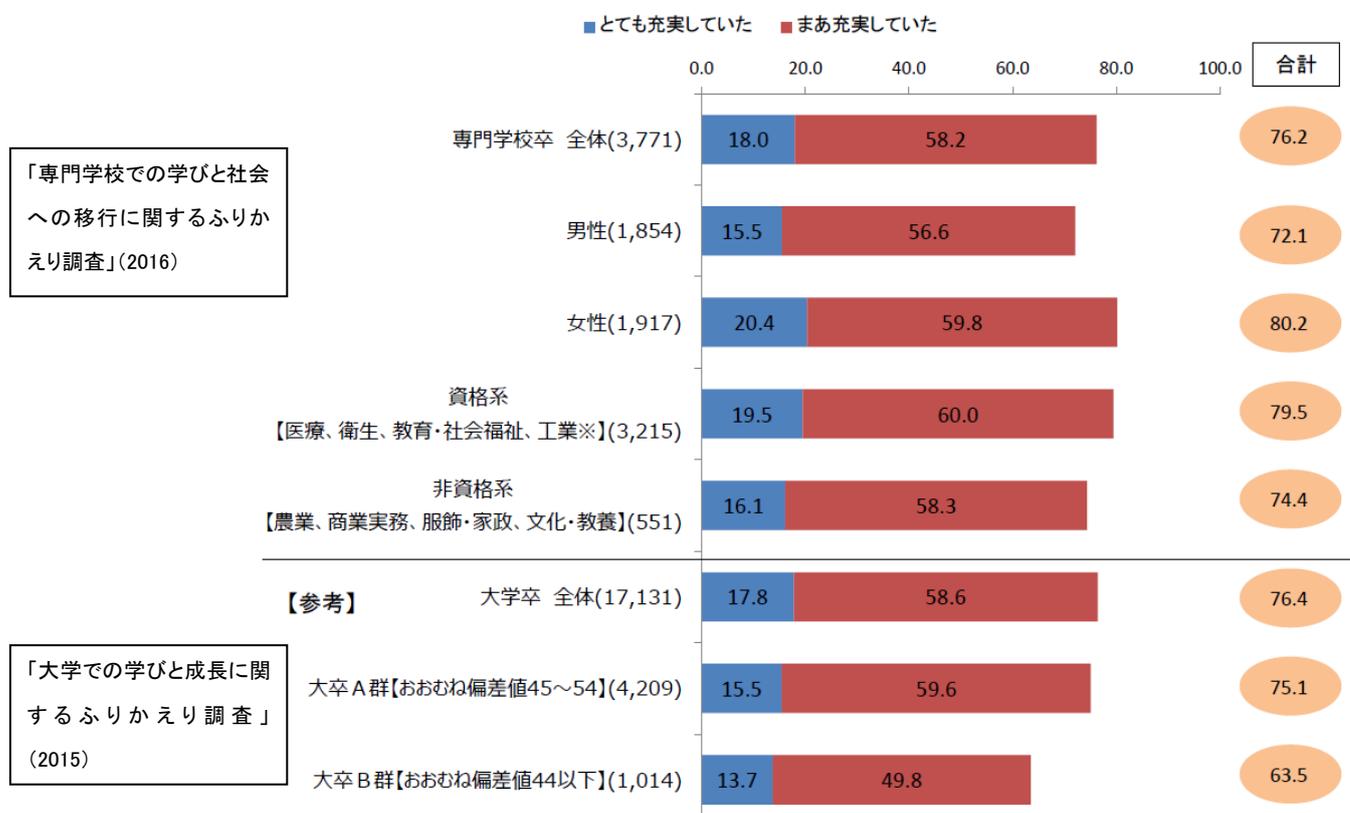
専門学校時代の学びが充実していた(とても+まあ充実していた)と回答した比率は、専門学校の卒業生全体で 76.2%。約 8 割の卒業生が学びが充実していたと回答している。属性別にみると、特に女子で 80.2%と高く、また資格系・非資格系別では、資格系で 79.5%とポイントが高い。

また、学びの充実について、2015年に実施した「大学での学びと成長に関するふりかえり調査」(大卒社会人約 2 万人が対象)の結果と比較すると、大卒者(全体)の回答比率は 76.4%と、専門学校卒者の比率と同等である。

*卒業大の入試難易度が専門学校進学者と同程度の大学に絞り、学びの充実度を比較すると、専門学校 76.2%≒大卒 A 群(おおむね偏差値 45~54)75.1%>大卒 B 群(おおむね偏差値 44 以下)63.5%であった。

Q. 専門学校(大学)時代の学びを振り返り、充実度についてあてはまるものをお選びください。

(%)



※今回使用している大卒者データは、専門学校卒の調査対象(20~49歳)にあわせて、大卒社会人約 2 万人の中から対象者(23歳~49歳、17,131名)を再抽出、値を再算出しているため、発表済みの「大学での学びと成長に関するふりかえり調査」(2015)の数値とは異なる。

※偏差値帯による大学の分類には、「あなたがご卒業された大学の入試難易度にあてはまるものをお選びください」の質問に対して「おおむね偏差値 65 以上」「おおむね偏差値 55~64」「おおむね偏差値 45~54」「おおむね偏差値 44 以下」「わからない」の 5 つの選択肢から回答者が選択した結果を用いている。

※オレンジ囲みの数値は「とても充実していた」+「まあ充実していた」の%

※工業分野の一部の学科は、違う分類に位置することがある。

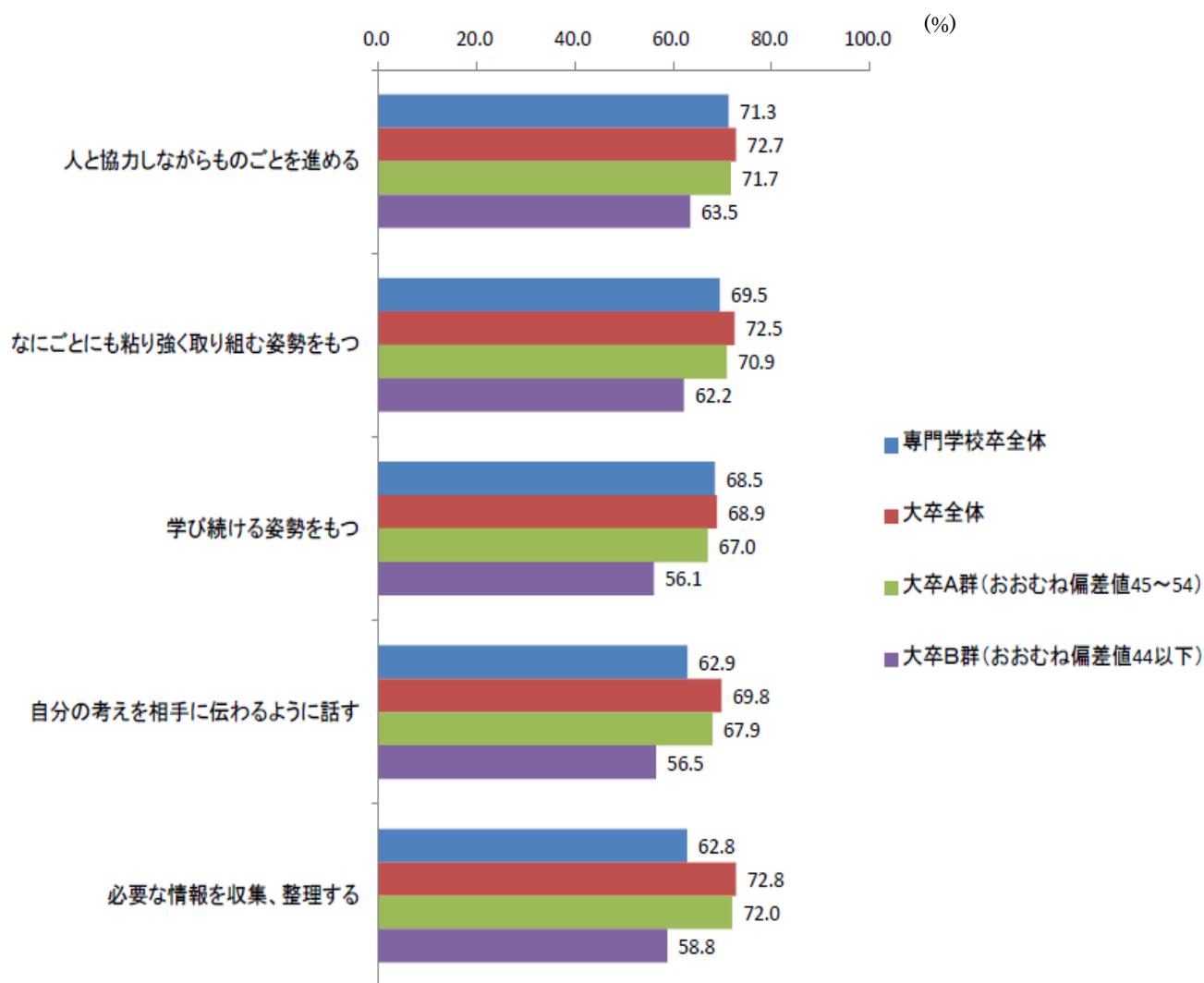
職業教育を通じて身についた資質や能力

2) 職業教育を通じて協調性や勤勉性など非認知スキルの向上を感じている卒業者は約7割。

専門学校卒業者は、専門学校時代の学びを通じて、どのような資質・能力を獲得しているだろうか。学びの成果に関する上位5項目をみたところ、「人と協力しながらものごとを進める」(71.3%)、「なにごとにも粘り強く取り組む姿勢を持つ」(69.5%)、「学び続ける姿勢をもつ」(68.5%)など、生涯にわたり影響し続け、社会的な成功に関連すると言われる「非認知スキル」(学びに向かう力や姿勢)の項目で比率が高い。これらの結果は、大学卒業生(全体)が回答した比率とほぼ同等である。しかし「必要な情報を整理する」(10.0ポイント差)など汎用的な認知スキルの項目では、大学卒業生とポイント差がある。

Q.専門学校(大学)生活全体を通じて次のようなことは、どの程度身についたと思いますか。

(上位5項目)



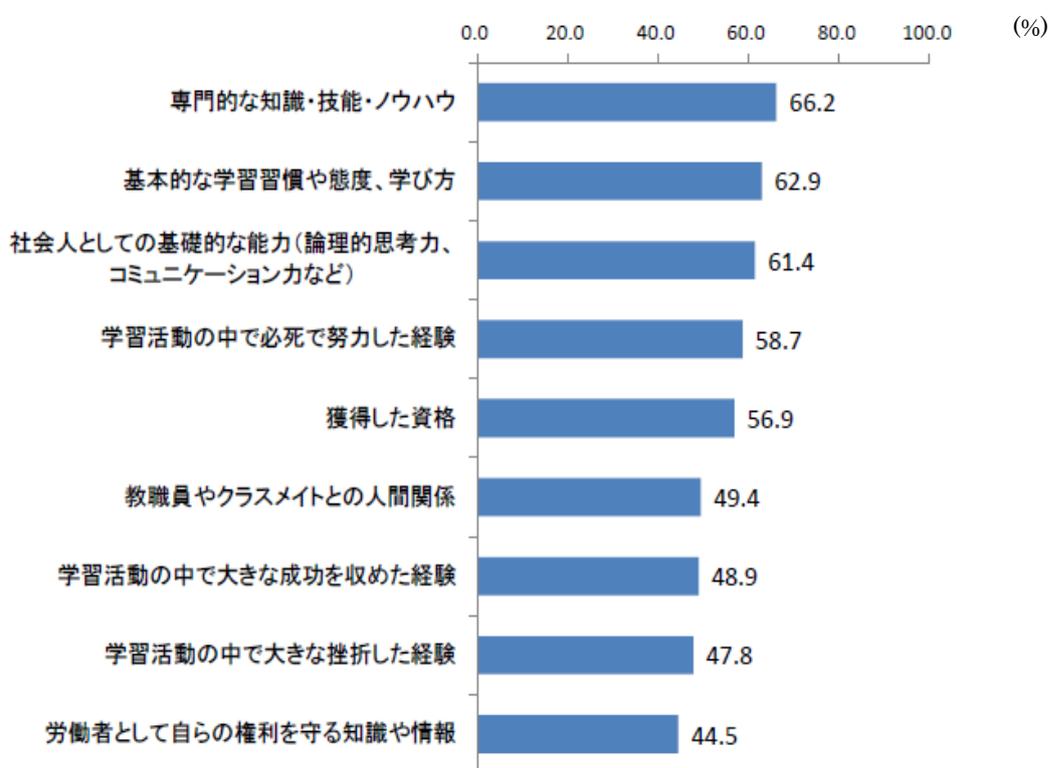
※「かなり身についた」+「ある程度身についた」の%

現在の職業生活に役立っている専門学校時代の教育成果や経験

3) 専門学校卒業者の6割が、専門知識や資格以外に「基本的な学び方」や「社会人としての基礎的な能力」の役立ちを実感。

専門学校時代に身に付けたことや経験で卒業後の職業生活に役立ったものを訊ねたところ、「専門的な知識・技能・ノウハウ」(66.2%)に次いで、「基本的な学習習慣や態度、学び方」(62.9%)、「社会人としての基礎的な能力」(61.4%)「学習活動の中で必死に努力した経験」(58.7%)などが上位に上がり「獲得した資格」(56.9%)とほぼ同等に役立ち度を感じている。専門学校の卒業生は、職業教育を通じて、専門的な知識・技能の習得や資格に加え、生涯にわたって学び、働き続ける上で必要な能力や経験も獲得している。

Q 次のような専門学校時代に身に付けたことや経験は、これまでのあなたの職業生活にどのくらい役立っていますか。



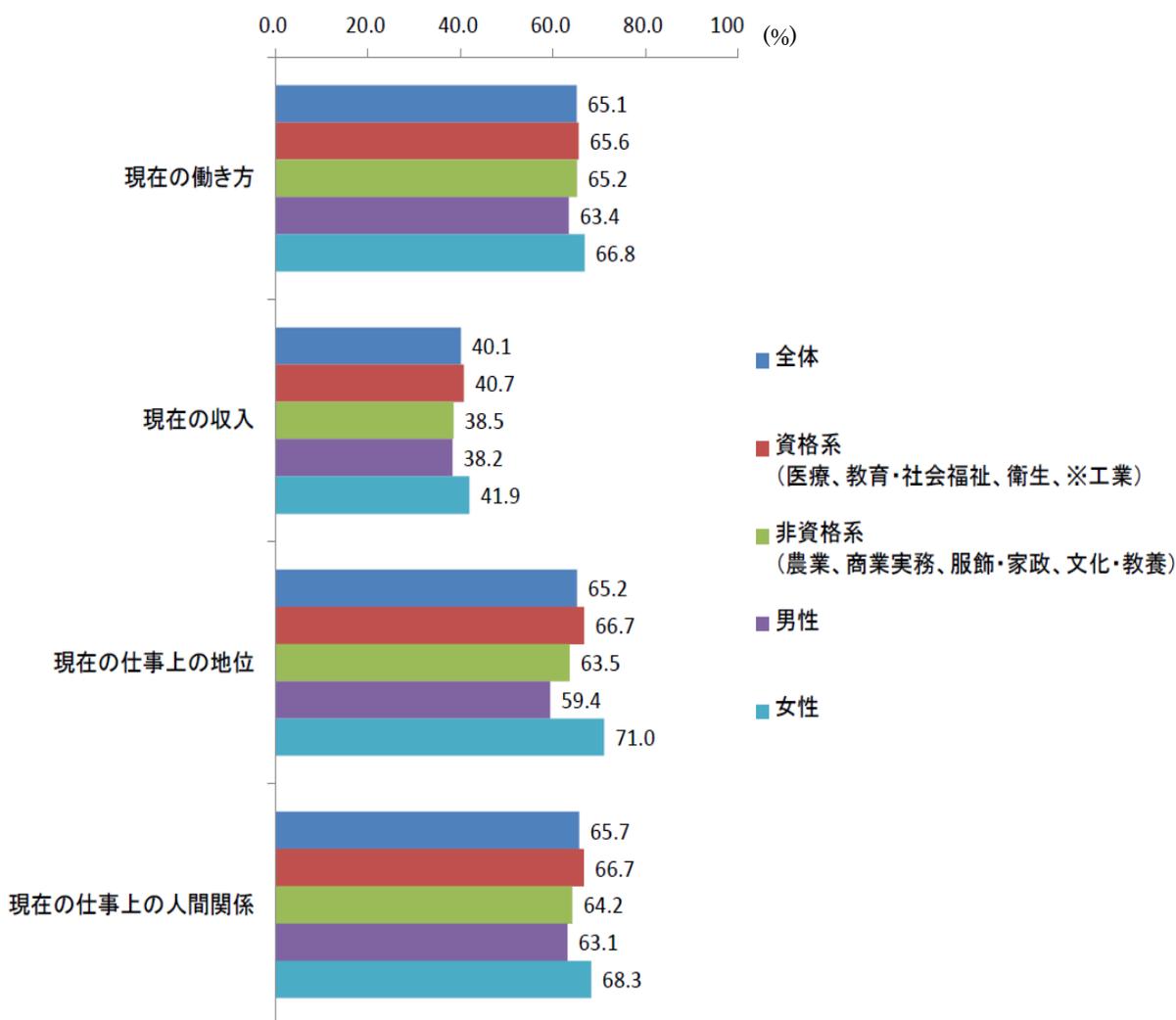
※「とても役立っている」+「まあ役立っている」の%。

現在の仕事に対する満足度

4) 卒業生の約65%が現在の「働き方」「仕事上の地位」「仕事上の人間関係」に満足も、年収面の満足度は4割にとどまる。

専門学校を卒業後、社会に出た卒業生は現在の仕事にどの程度満足しているのか、現在の「働き方」「収入」「仕事上の地位」「仕事上の人間関係」の項目についてみたところ、約65%の卒業生が「働き方」「仕事上の地位」「仕事上の人間関係」に満足しているが、「年収」のみ4割にとどまっている。「現在の仕事上の地位」において女性で若干ポイントが上昇する傾向がみられるが、年収のみ低下する傾向は、資格系・非資格系別にかかわらず同様である。

Q あなたは以下の内容について、どの程度満足していますか。



※「とても満足している」+「まあ満足している」の%。

**5) 専門分野によって卒業後の専門分野の「定着率」や「正規雇用率」、「平均年収」に違い。
大学卒業者(全体)との平均年収の差は約 100 万円。**

専門学校卒業者は、現在どのような分野の仕事に、どのような条件で働いているのか。卒業後の社会での働き方について、専門学校在籍時の専門分野と関連する領域の仕事に就いている比率(「定着率」)、「正規雇用率」、「平均年収」の3つの観点から、専門分野別にその実態をみたところ、「定着率」は、医療分野(81.5%)や教育・社会福祉分野(69.0%)で高く、商業実務分野(34.2%)や文化・教養分野(21.8%)で低い。資格系と非資格系で明確な差がみられる。一方、「正規雇用率」と「平均年収」は、資格系の中でも衛生分野(41.6%、228万円)は低い、非資格系の中でも商業実務分野(61.6%、307万円)は高いなど、専門分野による差が大きい。また「平均年収」について大学卒業者(全体)と比較したところ、約100万円の差が確認された。

			(%)
資格系	医療分野 (看護、理学・作業療法、柔道整復、歯科衛生、歯科技工など)	定着率	81.5
		正規雇用率	74.0
		平均年収(万円)	353
	衛生分野 (美容、理容、調理、製菓・製パン、栄養など)	定着率	54.0
		正規雇用率	41.6
		平均年収(万円)	228
	教育・社会福祉分野 (介護福祉、保育、社会福祉、幼児教育など)	定着率	69.0
		正規雇用率	70.7
		平均年収(万円)	285
	工業分野 ※ (情報処理、自動車整備、土木・建築、電気・電子工学など) ※一部の学科は非資格系に分類される	定着率	67.2
		正規雇用率	75.6
		平均年収(万円)	378
非資格系	農業分野 (農業、園芸、畜産、バイオテクノロジーなど)	定着率	31.4
		正規雇用率	54.1
		平均年収(万円)	322
	商業実務分野 (経理・簿記、秘書、経営、観光・ホテル、医療事務など)	定着率	34.2
		正規雇用率	61.6
		平均年収(万円)	307
	服飾・家政分野 (和洋裁、服飾、ファッションビジネスなど)	定着率	35.0
		正規雇用率	39.1
		平均年収(万円)	254
	文化・教養分野 (デザイン、音楽、美術、法律行政、スポーツ、演劇・映画、外国語など)	定着率	21.8
		正規雇用率	44.3
		平均年収(万円)	256
専門学校卒業者 全体 N=3,634			平均年収(万円) 316
			全体
大学卒業者	大学卒業者 全体 N=13,352	平均年収(万円)	418
※短大、4年制大の どちらか1つあるいは 両方を卒業した者	卒業大の入試難易度A群(おおむね偏差値45~45) N=3,441	平均年収(万円)	395
	卒業大の入試難易度B群(おおむね偏差値44以下) N=826	平均年収(万円)	356

※定着率は、専門学校在籍時の分野と関連する仕事にどの程度就いているか、その継続性を把握するために、専門学校在籍時の専門分野と現在の仕事に関連する専門分野を尋ねた項目を用いてクロス分析を行い、その比率を算出した。

※正規雇用率は、現在の雇用状況について「民間企業の正社員」+「公務員(公益団体などの正職員を含む)」と回答した比率

※平均年収の平均値は、個人年収の変数を「0円=0」「1円~103万円以下=51.5」「103~130万円=116.5」~「1500万円以上=1750」のように数値に置き換えた上で算出した。

※定着率、正規雇用率、平均年収の算出にあたっては、「無職」や「専業主婦や専業主夫」の対象者を除いている。

※大卒社会人の平均年収は、「短大」「4年制大」のどちらか1つあるいは両方を卒業した者のみを対象とし算出。6年制大、大学院、海外の大学・大学院を卒業した経験をもつ者は除いている。また専門学校卒と同様、現在「無職」「専業主婦や専業主夫」の対象者も除いている。